



聖徒のための情報誌

今月号の内容

『釋尊成道会』に寄せて(1面)
「人づくりこそが国づくり」
よろこびちゃんの質問箱(2面)
法華経のお話・よろこび佛教語解説・日蓮大聖人の歩まれた道(3面)
よろこび法話(4面)

平成24年(2012年)12月1日(土)

12月号

発行所
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町3-25-11
九段中央ビル702
日蓮宗霊断師会九段事務所
電話 03-6272-9340
FAX 03-6272-9341

日蓮宗霊断師会

会長 新聞 智雄
編集人 松本 恵昌
購読料 1部 105円
毎月1回1日発行
日蓮宗霊断師会ホームページ
http://www.yorokobi-reidanshikai.jp
よろこび投稿メール
yorokobi@yorokobi-reidanshikai.jp

『釋尊成道会』に寄せて
「全体の『しあわせ』に向かて！」



日蓮宗霊断師会 教宣局長
知見会信行寺聖徒団 団長
知見会海禪院聖徒団
松本 恵昌

十二月八日は、「釋尊成道会」。
難行苦行六年の後、尼連禪河で身を清め、菩提樹下に端坐瞑想された釋尊(お釋迦様)は、この日、暁天の明星一閃の間に遂に悟りを開かれ、「一切衆生皆成佛道」の為に、『法華経』に完結する尊きみ教え『佛教』をお説きになられたのでした！

『しあわせ』への道

「成道」とは、即ち佛道を成就すること。
印度はカピラ城の城主・浄飯王と摩耶夫人の間にお生まれになられたお釋迦様(悉達多)は、或る時、老病死に苦悩する多くの人々を目の当たりにされて世の無常なることを感じ、当然王となるべきご自身の御立場を捨て、「解脱」の妙境を求める為に御出家されたと云われています。
「解脱」とは、現世の欲を捨てて死の恐怖からも脱却し、やがて心の安穩に住することを云います。お釋迦様は、我が身がこの境地に至らん事を願ひ、六年に亘る難行苦行を重ねられ、遂に「身はこれ安全に、心はこれ禪定」なる「解脱」の境地を得たのでした。



しかし、一見最高の境地、至極の悟りと思われたこの満足は、実は自分一人の『しあわせ』(個人の成佛)自己の満足であつて、現実の娑婆世界は誰もが皆苦しんでいて、悲哀に満ちていたのでした。
「自分ひとりの成佛」満足なら、これでは良い。しかし、そうではない、これではない。
現世の欲を捨て去り、死の恐怖からも脱却し、我が身安穩の境地に達して尚、お釋迦様の心を揺り動かして止まなかつたこと、美しい景色を見て、綺麗な所に泊まり、美味しい食事を戴きながら、確かに私の目や耳や舌は喜んでゐるはずなのに、私の心は寂しきで一杯です。
きつと「一緒によろこび」、「一緒にしあわせ」が欲しいのです。
本当の『しあわせ』は、そんな『共感の心』なくしては語れないのです。私たち聖徒こそは、私たち一人一人の家族や隣人に対する偽りのない真実の愛、お釋迦様の慈悲心、悟りの境地に通じる『共感の心』を、御題目の信仰を以て世界全体に拡げてゆかねばならないのです。
今、地球上には七十億に及ぶ人間が居て、そんな彼らがたとえ生きようが死のうが、何処で戦争や災害、テロが起こつていようが、直接身に及ばん限りは関係ない。そんな思い上がりの有頂天では、人の痛みはわかりません。
私たちの体には約六十兆の細胞があつて、これを、無理を承知で今の世界人口七十億(全人類)に置き換えて、私の体に譬えれば、たとえ私の指先の細胞が喜んでいても、私の体や心の他の部分が痛ければ、私自身は痛いはず、悲しいはず。
この『共感の心』を拡げてゆけば、必ずや『全体のしあわせ』に繋がることを、お釋迦様はお示し下されたのです。
十二月八日は、お釋迦様が「総てのものを救いたい」と、全体の『しあわせ』に向かつて、尊き一步を踏み出された尊き聖徒の日。
人類史上初めて佛を生きて、後に続く私達に佛として、人としての振舞いの手本をお示し下さつたお釋迦様の尊い御生涯を偲ぶと共に、私達も又、御題目「南無妙法蓮華経」の信仰を以て、佛道修行に励む決意を新たに、来るべき平成二十五年をお迎え下さることを、心よりお祈り申し上げます。



美しい景色を見て、綺麗な所に泊まり、美味しい食事を戴きながら、確かに私の目や耳や舌は喜んでゐるはずなのに、私の心は寂しきで一杯です。
きつと「一緒によろこび」、「一緒にしあわせ」が欲しいのです。
本当の『しあわせ』は、そんな『共感の心』なくしては語れないのです。私たち聖徒こそは、私たち一人一人の家族や隣人に対する偽りのない真実の愛、お釋迦様の慈悲心、悟りの境地に通じる『共感の心』を、御題目の信仰を以て世界全体に拡げてゆかねばならないのです。
今、地球上には七十億に及ぶ人間が居て、そんな彼らがたとえ生きようが死のうが、何処で戦争や災害、テロが起こつていようが、直接身に及ばん限りは関係ない。そんな思い上がりの有頂天では、人の痛みはわかりません。
私たちの体には約六十兆の細胞があつて、これを、無理を承知で今の世界人口七十億(全人類)に置き換えて、私の体に譬えれば、たとえ私の指先の細胞が喜んでいても、私の体や心の他の部分が痛ければ、私自身は痛いはず、悲しいはず。
この『共感の心』を拡げてゆけば、必ずや『全体のしあわせ』に繋がることを、お釋迦様はお示し下されたのです。
十二月八日は、お釋迦様が「総てのものを救いたい」と、全体の『しあわせ』に向かつて、尊き一步を踏み出された尊き聖徒の日。
人類史上初めて佛を生きて、後に続く私達に佛として、人としての振舞いの手本をお示し下さつたお釋迦様の尊い御生涯を偲ぶと共に、私達も又、御題目「南無妙法蓮華経」の信仰を以て、佛道修行に励む決意を新たに、来るべき平成二十五年をお迎え下さることを、心よりお祈り申し上げます。

津軽宇田山 間法寺
12月9日 午前11時より
「大黒天神大祭」
毎月 最終日曜日「盛運祈願会」
〒030-1403
青森県津軽郡外ヶ浜町平館元宇田52-2
TEL 0174-25-2712
住職 工藤 堯幸
副住職 工藤 堯慎・修徒 工藤 堯顯

日蓮宗 東光山妙正寺 聖徒団
妙正寺聖徒団 錦川敏文
12月2日(日)11時
星祭祈願会。(お炊き上げ)
毎月1日午前10時 盛運祈願会
妙正寺聖徒団 団長 関 龍雄
〒071-1423
北海道土川郡東川町東町2丁目6-3
TEL 0166(82)2714
FAX 0166(82)2914

いかされるよろこび
美濃乃國
常唱寺 聖徒団
〒501-3734
岐阜県美濃市千畝町2738-2
TEL/FAX 0575(33)1430

本山 妙蹟寺
日蓮大聖人御真骨奉安
齊藤日軌貫首著
「日蓮宗の戒壇、その現代的意義」
国書刊行会
CD「感謝百万遍陀羅尼」「ないないブルース」
好評発売中!
〒327-0843
栃木県佐野市堀米町264
TEL 0283-22-1524
FAX 0283-22-4194
http://www.sano-myoukenji.jp

日蓮宗霊断師会会長
感通寺聖徒団団長
新聞 智雄
〒162-0044
東京都新宿区喜久井町39
TEL 03-3209-8782
FAX 03-3208-7966

# 人づくりこそが国づくり

## 物で栄えて心が滅ぶ時代だからこそ...



日蓮宗霊断師会 伝道局布教部長  
青森県つがる市道円寺聖徒団  
前青年会東北ブロック長  
前災害対策委員長(全日青)

飛鳥 玄龍

### 世界各国から賞賛された日本人の「徳」

東北の被災地では、二年目の冬を迎えている。今年の夏は、東北各地でも連日三十℃を上回る猛暑日が続き残暑も厳しかったのだが、十月に入り一転して気温が低下して、まるで夏から急に冬へ移行したような感じである。ありがたくも普通の生活をさせて頂いている地域でさえ、急激な気温変化に対応できず体調不良を訴える人が多いのであるから、被災地域で仮設住宅での生活を余儀なくされている方々にとっては、心身ともに苦しい毎日を過ごされている事であろう。

震災発生の当時、私は前年の六月より全日青(全国日蓮宗青年会)に於いて前会長の伊東政浩上人(横浜市常陸寺)のもと、災害対策委員長の任を預かり二年目を迎えようとしていた。就任一年目に、「災害規約」が古く阪神大震災などの教訓を活かす為には改正が必要であると感し、委員と協議を重ね、改正書類を制作していた矢先の事であった。

テレビに映し出される災害映像は、過去に訪れた場所が多く、特に釜石市は前年度に「行道衆講習会」を開催した土地でもあり、記憶に残る美しい三陸海岸の景色が津波に飲み込まれていく情景は目を覆わざるにはいられた。通行規制や給油制限は災害対策の行動の行く手を阻み、物資は有れども届ける手段が無いという悔しい日々を過ごしたが、ようやく岩手県までで行ける燃料の確保が叶い、釜石の仙寿院様をはじめとする数か所の寺院へ向かう。県境を越えた頃から道中の景色は



一変し、車中の仲間の表情が曇る中で道を進めると、山間部にも関わらず津波の影響で川が逆流したとみられる場所や、燃料不足の為に避難途中で乗り捨てられたとみられる沢山の車両。地震による道路の湾曲や段差、家屋の倒壊などは、凡そ我々が通常では目にする事の無い光景であり、もし過去に似た記憶があるとすれば、きつと戦場中継で見た海外のニュース番組の映像ぐらいのものである。

数か所の避難所を訪ね支援物資を渡すと、御礼のお言葉と共に、我々の帰路・食糧・宿泊などの心配のお言葉を何処の場所でもかけて下さった。大変な思いで命を保ち、生活をされていく中에서도、他人への思いやりを欠かさぬ姿勢に、一同は心から感銘を受けたのであった。

テレビに映し出される災害映像は、過去に訪れた場所が多く、特に釜石市は前年度に「行道衆講習会」を開催した土地でもあり、記憶に残る美しい三陸海岸の景色が津波に飲み込まれていく情景は目を覆わざるにはいられた。通行規制や給油制限は災害対策の行動の行く手を阻み、物資は有れども届ける手段が無いという悔しい日々を過ごしたが、ようやく岩手県までで行ける燃料の確保が叶い、釜石の仙寿院様をはじめとする数か所の寺院へ向かう。県境を越えた頃から道中の景色は

して良い支援環境では無いにも関わらず、その言葉やお姿に、参加した一人が「仏の姿を見た!」と言っていた。まさに「仏の姿」であり、その事を感じる事ができた人も「仏」であった。

震災発生時より世界各国から報道関係者が来日し、長期に亘り取材が行われて映像や文章で被災地の状況を発信しているが、多くの国々で賞賛や感動を与えているのが被災地の物資配給の様子や震災後の被災者の活動である。「我々の国で同様の状況になれば、物資の強奪や暴動が起きる。日本人々は困難な中でも誇りを捨ててはいない!」「物資配給の列に並ぶ事が出来るのは、子供の頃からの教育や地域に於ける交流が来ているからである。あの姿を国として見習うべきである。」等々の多くのコメントが、テレビや雑誌、インターネットに寄せられている。

### 「人づくりこそが国づくり」

各国に感動を与えている行動や姿勢は『一朝一夕』に出来ることでは無く、先祖代々、親から子へと受け継がれてきた、自然に身に沁みついた『徳』である。教育とは「知育」「体育」「徳育」で成り立つが、今の世の中は「徳育」が足りないと言われている。

侍の時代には、各藩に藩校という教育の場が存在したが、これは将来有望な人材を育てるには、幼年時から教育が肝要であると感じたのである。(その時代に日本を訪れた海外の人々は、日本人の識字率の高さに驚嘆し、植民地にするのを諦めたことさえ云われている。)東北の各藩も藩校を開き、多くの人材を育成してきたが、中でも有名なのが、「白虎隊」で知られる會津藩の藩校・日新館である。優秀なる者は学問が出来て当たり前で、人として徳を備え、恥ずべき事を知る人物でなければならぬ、国のためになるような人を養成すべし」と、「人づくりの学校」を目指して開かれた。



これは「什」と呼ばれる教育組織で、現在の幼稚園との大きな違いは、「什の掟」と呼ばれる決まり事を子供たちに毎日複唱させていたことである。内容は、「年長者を敬う」「卑怯な行いをしない」「弱い者を助ける」等々と続き、必ず最後に、「ならぬことはならぬものです」と唱えさせていた。様々な約束の最後にある「ならぬことはならぬものです」が最も要箇所であり、この心掛けを小さい頃から覚え込ませ、身に付けさせる為に、繰り返し繰り返し、何度も何度も「身と口と意(こころ)」に復唱させたのであった。

會津藩は戊辰戦争の折、幕府方に忠誠を尽くしたが故に新政府軍より賊軍の汚名を着せられ滅藩となり、再興の許しが出たものの、当時、稲作に不向きであった現在の青森県下北半島と南部地域に縮小移転をさせられた。石高は、それまでの二十八万石より三万石(実高七千石)に減封、藩名も斗南藩と改称した。風土も極端に異なり、會津より移った藩士や領民の暮らしは困窮を極め、その日の食にも事欠く中で最初に着手したのが日新館再興であったという。これは「人づくりこそが国づくり」であるとの祖先の教えを守り抜いた故の結論であり、後に同藩が多くの優秀な教育者を輩出できた要因といえる。この様な人づくりが昔は各地で行われ、幾多の困難に立ち向かい、乗り越えられる「徳」を備えた人々を世に送り出してきたのである。しかし、このような徳を備え、海外から賞賛(前述)を得るような人々が暮らす地域に、未だ復興の兆しが見えていないのは甚だ残念でならない。

テレビで放映される被災地は、復興中の限られた場所である。大都市からのボランティアも日帰りが可能

であり、企業やマスコミからの注目もあり、支援も受けやすい。しかし、そのような中で、多くの被災者は未だ断熱材の効果が薄いプレハブで夏の猛暑や冬の極寒と戦い、病院や買い物にも不自由な環境の中での生活を余儀なくされている。「正しい教えが無ければ、国は滅びる!」

『立正安国論』を以て日蓮大聖人は鎌倉幕府に訴えられたが、現在もまさに同様である。毎年のように政府が変わり、毎月のように大臣が変わり、互いに足を引っ張り合う国政。数年前の勉強会で新聞会長が「物で栄えて心が滅ぶ時代...」と仰られた言葉が、心に深く突き刺さった事を思い出す。

### よるこびちゃんのお問箱



よるこびちゃん

#### お仏壇のお手入れってどうするの？

今年も残りわずかだから、是非お仏壇もきれいにしておいて、気持ちよく新年を迎えたいわよね。

【仏壇】

まず、手を合わせて『今年もお護りいただき、ありがとうございます。』と挨拶をします。今からお掃除をさせていただきます。『とお伝えして、ゴミやほこりは、軽い良質の毛バタキ等で払うのがいいわ。』

漆塗りの箇所は、柔らかい布やつや出し布巾等で拭くと、光沢がでるわ。(ただし、漆は水に弱いので、ぬらさないように心がけてね。)

金ばくの部分は、手で触ったりこすったりすると、金ばくが剥げおそれがあるから、毛バタキ等で軽く払う程度でいいわよ。唐木仏壇の場合は、毛バタキで

今、私たちの為すべき事は「徳育」である!正しい教えにより本来備え持つべき「善」と「美」、日頃の行いや言動などの「我が身の振舞い」を、今一度見つめ直す時が来たのである。「ならぬことはならぬものです...」。この言葉もまた、「身と口と意(こころ)」に「唱える御題目『南無妙法蓮華経』」。今、生かされている自分は、本当に正しい行いをしていくか?日々、心の仏に問いながら、正しき「徳」を後世に伝えて行きたいものである!

軽く払って、つや出し布巾で軽く拭くだけでいいわ。【線香立て】灰が強く固まっていたり、燃え残りのお線香が何本も残っているとお線香が立ちにくくなるから茶こしや専用の灰ふるい等で、灰をふるってみると、見た目もきれいになるわよ。※あと、口ウソク立てに残った燃え残りもきれいに掃除することをお忘れのないようにね。大切なのは仏様、神様、御先祖様の住む家を、いつも綺麗にしておく心がけ。この気持ち、仏様や神様、御先祖様は、一番およろこびになられるわね。



# 第十八回 日蓮大聖人の歩まれた道

## 出家得度のご決意



総合研究所  
教学研究部長  
小泉 輝泰

「民の家より出でて頭をそり、袈裟をきたり。此度いかにしても佛種をもうえ、生死を離るる身とならんと思て候しほどに」  
(妙法比丘御返事)

清澄山にて学問の一途に勤しんでこられた薬王丸でしたが、いよいよ人生の一大転機となる時を迎えようとしていました。

嘉禎三(一二三七)年十月八日、山内では僧侶たちが一堂に会し、厳かなる儀式が営まれておりました。その中心には、兄弟子浄願房、義浄房に付き添われながら手を合わせ、深く頭を垂れる青年の姿がありました。その日、薬王丸は道善御房を戒師と仰ぎ、髪を下ろして俗世間との別れを告げ、ついに出家者として

の第一歩をしるされたのでした。  
時に薬王丸は御年十六歳、その稚児名を改め、僧侶として是聖房蓮長の名を授かりました。



これが一般的に世に知られるご出家のエピソードです。日蓮さまのご一代記としては、様々なところで語られるお話ですので、皆さんも何かの折にお耳にしたことがあるかもしれませぬ。しかし実のところを申しますと、日蓮さまのご出家に関する事、殊にそのお年については諸説あつて、最近まで定かではありませんでした。

である『本化別頭祖統紀』や『元祖化導記』などでは、そのお言葉引用してか「延応元年、十八歳にてご出家」との記載があり、江戸時代にかけて長くその説が伝えられてきたのです。しかもその時授かった僧名は「是性房」あるいは「是生房」であつたとされるのです。

その後、昭和の初め頃になつて、日蓮さまご出家の説を決定付ける大きな発見がなされました。それが金沢文庫にて発見された『授決田多羅義集唐決』と呼ばれる天台密教書の書写です。この奥書には「嘉禎四年大歳戊戌十一月十四日 阿房国東北御庄清澄山 道善房 東面執筆是聖房 生年十七歳」との文がはつきりと記されており、これにより十六歳にてご出家され、名を「是聖房」と改められたことが定説となつていったのです。

その一説には、十八歳でご出家の説も長い間語られておりました。その背景として、日蓮さまのいくつかの御書には「延応元(一二三九)年」または「十八時得出家」などのお言葉が見受けられ、後世の著名な伝記

と、ここまではいわゆる歴史学、あるいは文献学としてのお話ですが、実は今ひとつ、このお年にご出家をなされた、深い深い因縁を物語るようなお話もあるのです。それはまた、次号にて。

## 第十七回 よろこび 佛教語解説



総合研究所  
霊研主任  
新聞 信應

### 『化城宝処の喩』

今月は法華七喩の四番目、『化城宝処の喩』のお話です。この化城宝処の喩は、法華経の化城喩品第七の中に説かれてある教えです。

ある時、宝のある場所(宝処)を求め、五百由旬という遠い旅を続ける人々がいました。その旅は、あまりに険しく困難な道程であつたので、心身の弱い者は、「もう疲れ果ててしまい、これ以上困難な旅を続

けて行く事が出来ない。どうも先はまだまだ遠いようなので、今から引き返したい」と申し出ました。そこで一行を引率する優れた導師は、方便の力を用いて幻の城を造り出し、皆を休息させ疲れを癒したのです。人々の疲れがすっかり癒えた頃、導師は仮の城(化城)を消し去り、「この城は、皆を休息させるため、私が造つた幻の城なのです。さあ、宝はもう直ぐそこです。元氣を出して行きましよう」と励まし、本当の宝の場所へ皆を導いたのでした。

お釈迦様の説かれた様々な經典の中で、『法華経』こそが本當の深理を明かされた教えです。しかし、それはとても難解な教えであり、その深理を理解するには大変困難な道程を経なければなりません。そこで多

くの人々は、法華経に至るまでに説かれた易しい教えを、信仰の拠り所にしよとするのでした。しかし、それは仮の城(化城)であつて、決して最終到着点ではないのです。日蓮さまは、難解な法華経の深理を頭で理解するのではなく、信によつて体得する方法を示して下さいました。それこそが題目の信仰によつて得られる宝、大いなる悟りの功德なのです。



# 法華経のお話

17



総合研究所主任  
塩入 幹丈

## 無量義経の段 その十六

### 大轉輪王小轉輪王。金輪銀輪諸轉輪王。(無量義経徳行品第一)

①神佛習合は何処に行つたのよ  
明治以前の天皇の中には、引退後に出家することで、太上法王へとクラスチェンジされる方もおられました。いわば神主さんが、お坊さんになるということですね。

ことほどにかつての皇室には、佛教との強固なる関係が存在していたのです。

しかし、今やその面影すらもありません。神道の長たる皇室の佛教との断絶は、そのまま神佛習合という日本文化の大いなる美点、優れた特色の喪失に繋がつていったのです。まさに失われた百四十五年!

ああ、されどされど、それも致し方なきこと、皇室にて盛んだつた佛教、それは賞味期限の切れた時代遅れの佛教、それも明治はおろか、すでに平安の末で任務完了済の佛教だつたのですから…。

### ②公家佛教と言えは天台宗でしよう

皇室においてセンターポジションにあつた佛教といえは、即位灌頂式を誇る比叡山の天台宗でしよう。天台宗は無論、法華経を根本經典として最重要視する宗派です。

その法華経に説かれてある佛様といえは、ご存じ「久遠実成の釈迦牟尼佛」。



ところが比叡山の中心、国宝たる根本中堂(不滅の法灯が有名です)に祀られてゐるご本尊は、東方の驚王・薬師如来なのです。

法華経三部経には、お釈迦様・多宝如来をはじめとして、現在過去未来にわたる数多の佛様たちが登場します。

ビックネームの阿彌陀如来や阿閼如来も、実は法華経に登場する佛様。しかし薬師如来のことは、三部経のどこを開いても見つけることはできません。

そう、登場されていない佛様がご本尊様なのです…。

その逆に、法華経に登場されているのに無視されているパターンが、上行・無辺行・浄行・安立行の四人の大菩薩、いわゆる四大菩薩の扱いです。

法華経には、あの文殊・弥勒・観音・普賢菩薩といった、佛教界のスーパースターともいふべき大菩薩様たちをも遙かに凌駕する究極の菩薩として、この四大菩薩が登場します。膨大な数のお経の中で、このベスト・オブ・菩薩ともいふべき四大

菩薩のことが説かれているのは、唯一この法華経のみ。

ところが天台宗において、四大菩薩は拝むも何も、その絵像も何もない状態!

まさに四大菩薩への信仰は限りなくゼロに近い状態だつたのです…。



③伝教大師は知っていた  
法華経こそが拠り所とは言いがながら、これではことごとく大事なポイントを外しまくつていると言われても、致し方ないことでしょう。

なにしろ天台宗では、法華経二十八品(二十八章)って意味ね)の中で特に大事な要となる品(つまり要品ね)として方便品第二・安楽行品第十四・如来壽量品第十六・觀世音菩薩普門品第二十五の四つを挙げ

るわけですが、このセレクト!第二と第十六は当然として、第十四と第二十五は(むろん大事な教えではあります)が、法華経全体の話の流れから言つて、これはちよつと違つてしよう!という選び方なんです(なんで違つたの? ホントはどれ? との疑問には、追いついて後からお話しますね)

ここまでポイントをずらしまくつていその理由、決して法華経を解つていなかつたというわけではありませぬ。

後世の方々のごことはいざ知らず、叡山の祖伝教大師は、法華経の真意をちゃんと理解しながらも、あえて、あ・え・て、そのポイントを外すことで、教団を立ち上げていたのです…。

# よろこび法話

## 俱生神の強い御守護

「一寸先は闇」だからこそ、俱生神月守を肌身離さず着帯



日蓮宗霊断師会 指導局 講師部長  
大分県由布市蓮正寺聖徒団 団長  
飯盛 義教

世の中を見渡せば、実に様々な事件・事故が起っています。今年四月、京都で歩行者を次々とね、電柱に衝突した軽乗用車。歩行者の男性二人、女性五人の計七人が死亡しました。また、関越自動車道では、高速バスの居眠り運転事故で七人が死亡し、二人が重傷、十二人が重傷、二十五人が軽傷を負いました。私の地元・大分でも、タクシー運転手が殺害される等々、自分自身がしつかりしていても、いつ事件・事故に巻き込まれるかわからないのがこの社会の現実。だからこそ神秘的な守護の霊験あらたかな「俱生神月守」の着帯が必要なのです。

日蓮大聖人は、「人には必ず二の天影の如くにそひて」と仰せになられて、「この二天、即ち同生天は健康に恵まれ、生命の危険から護って福を与え下さる神、同名天とは経済を護り、徳を与えて下さる神。二天を合わせて俱生神と言う」壽量御本佛様が俱生神を通して、その人が生まれた時から亡くなるまでの一生をご守護することを明らかにされています。しかし、その守護の効力は、人それぞれの信行の強弱によって、自ずと違ってくるのであると仰せであり、その信行の証こそが、まさしく「俱生神月守」なのです。

さて、私のお寺の聖徒さんに別府市の某ホテルの取締役常務で、営業もこなしているKさんという方がおられます。そのKさんが私の勧めを素直に受け入れて「俱生神月守」を着帯して三年目の平成二十三年一月二十二日、Kさんは「ヒヤッ」とするどころか完全に相手が大きかと思った程の重大事故に遭遇したのです。

その日、Kさんは営業を終えてホテルに向かつて車を走らせていました。時刻は午後三時五分、ちょうど交差点に差し掛かろうとした時、交差点内の反対車線では一台の車が、右折を示すウインカーを点滅させて止まっていました。この時、Kさんは、まさか反対車線の車が動き出すとは思ってもよらず「直進する自分の方が優先車だから、右折車は止まっていてくれるだろう」と信じて、交差点内に侵入したのです。しかし、まさにその時、相手の車が急発進したのです。まるでスローモーションのように相手の車の助手席に座る女性(運転手の奥さん)がこちらを見て顔が眼前に飛び込んできた瞬間、Kさんは思いっきりブレーキを踏みながらハンドルを切りましたが避け切れずに二台の車は激しく衝突し、交差点脇の民家の前で止まりました。頭を打つてもうろうとしながらも自力で車から降りたKさんは、事故を知って集まってきた周りからの「動いてはいけない!」との声を耳に、相手のことが気になりながらもそのまま座り込んでしまったのです。

事故現場には、すぐに警察の方や救急車・レスキュー隊が駆けつけてきて大騒ぎになりました。すぐさま三人は救急車で病院に搬送されましたが、まさしく神仏の御守護、

幸いにも三人は共に軽傷で、命に別状はなかったのです。その後の事情聴取で相手側は、「直進車がまた遠いから曲がっても大丈夫だろう」と思い、右折しました」と話して自らの非を認めて、Kさんは警察の方から「交差点は減速して進入するように」との基本的な注意を受けたのみで済みました。「相手の車の助手席のガラスは大きく割れていたが、奥さんには切り傷ひとつなく、運転していた旦那さんも、無事だったのは不思議ですね」と言っていた警察の担当者。Kさんは、「お守を着帯していたからこそ、無意識の内に体が反応したのでしよう。お互いに助かったのはお守のおかげです」と、感慨深げに話されました。

「人の心かた(固)ければ、神のまほり(護)必ずよし(強)とこそ候へ。」

「乙御前御消息」と、日蓮大聖人が仰せになられているように「俱生神月守」を着帯し、強い信念があれば必ずご守護があるのです。

「正直の頭(こうべ)に神宿る」という諺があるそうです。

Kさんは素直に「俱生神月守」を着帯し、信じていたからこそ壽量御本佛様が俱生神を通して助けて下さったのでしよう。

この世は、誰もが「一寸先は闇」。

常に「俱生神月守」を肌身離さず着帯し、是非ともお知り合いの人にもお勧め頂いて、「俱生神月守」着帯の輪を広げて参りましょう。



## 第四十八回全国結集身延大会開催日程

平成二十五年  
五月十一日(土)  
唱題修行  
十二日(日)  
奉告式

日蓮宗霊断師会「第四十八回全国結集身延大会」が、右記日程で日蓮大聖人棲心の聖地身延山久遠寺にて開催されます。

この「身延大会」は当会の根幹をなす一大事業であると共に、皆様と一緒に作上げる大会であります。

参加された皆様と共によい良い大会にするべく、企画運営に全力で取り組んで参りますので、多数のご参加を宜しくお願い申し上げます。

聖地身延のお山で皆様とお会い出来る事を楽しみにしております。



本誌イラスト 小川けんいち

**砥森山 法華寺**

生きて救われの道場

住職 阿部 是秀  
副住職 阿部 是眞

〒028-0304  
岩手県遠野市宮守町下宮守31-69-1  
電話 0198-67-3166  
FAX 0198-67-2227

**正立山 妙法寺番神聖徒団**

団長 新聞 信應

毎月1日 10時  
盛運祈願祭

お困り事はすぐ相談

神秘秘密の扉が開く時、必ず利益がいただける。

〒690-2404 島根県雲南市  
三刀屋町三刀屋1169  
TEL 0854-45-3657  
FAX 0854-45-3666

安房乃國随一  
三十番神祈願道場

**顕本寺聖徒団**

団長 小泉 輝泰

「1人で悩まず、まずは相談」

〒295-0002  
千葉県南房総市千倉町川合690-1  
TEL 0470-44-1062  
FAX 0470-44-1524

信用第一の専門店

◇格調高い関東風仏具◇

宗務院指定

仏壇・仏具 仏像彫刻  
内陣荘厳具 設計製作

**(株)中野三佛屋**

東京都台東区寿2丁目7の12  
電話 03(3843)6951  
FAX 03(3843)6973  
定休日 日曜日

手描絵、機械絵、冊子、  
広告、絵画、写真集、  
神絵、名刺、葉、

会社案内、お守り  
ステッカー、印刷物  
意匠(デザイン)全般

**Syoumukou**

株式会社 昇夢虹 (しょうむこう)

〒078-8801 北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号  
TEL (0166) 68-2004 FAX (0166) 68-2005  
<http://syoumukou.com>  
info@syoumukou.com